

令和6年度 学校評価〔中間評価〕（関係者評価記入用紙）

寿都町立寿都小学校

点数：最高4点、最低1点、基準点2.5点 自己評価基準・・・A:4～3.2 B:3.2～2.5 C:2.5～(ただし～3.2以上でも2点台以下が項目内に入っていればB)

目標項目		アンケート項目	教職員	児童	保護者	自己評価	各項目に関わる状況・改善点など		学校関係者評価委員会から	
							学校から			
重点目標について		1	子供が自分の目標に向かって挑戦する姿が見られた。	3.6	3.5	3.2	A	「挑戦」という言葉とともに、挑戦しようとする意識、挑戦することを応援しようとする雰囲気が根づいてきています。挑戦に対し、児童も前向きに取り組んでいます。学校の重点も踏まえて、活動の目標に取り組もうとしています。		
確かな学力の育成	協働的な学びの充実・実践	2	課題解決の意欲を高めるために導入を工夫したり、単元計画を作成したりすることで、子供が見通しを持って主体的に学ぶ姿が見られた。	3.7	3.6	3.6	3.2	3.2	A	導入や単元計画の工夫を通して、子供たちが主体的に学ぶ姿を各学年で見ることができました。今後も、学びを生かせる場を設定したり、子ども達の「～たい!」を大切にしながら、授業構築を進めていきます。
		3	全体交流の進め方を工夫することで、子供が協働的に学ぶ姿が見られた。	3.3						全体交流の中で子ども達が学びを深められるように工夫をすることができました。ICTを活用した協働的な学びも深化していています。
		4	家庭学習への取組を工夫して行い、家庭での学習習慣が定着した。	3						3.5
	指導の個別化と学習の個性化の確立	5	「がんばりタイム」や「朝学習」でICTや個別のプリントなどを活用するなど、子供が「個別最適な学び」を見つけ、学習する姿が見られた。	3.3	3.25	3.5	2.9	3	B	子供たちが自分に必要な学習を考え、それぞれに必要な学びをしていく力を伸ばしていくことができました。「言われたことをやる」のではなく、「自分で考えてやる」という子ども達の主体性を育てていく指導を全教員が意識しながら、教育活動を進めました。タブレットでの学び（ICTドリル）も含め、子どもたちの学びの選択肢が増えています。
		6	ICT機器の使用方法について研修を行うなどして、ICTを活用した教育活動の充実を図った。	3.2						教員間でICTについての情報を共有しながら、よりよいICTの活用について研修を進めることができました。児童用タブレットの持ち帰りについても実践を重ねています。今後も、教育DXに向けて、ICTを活用した学びの充実に努めていきます。
		7	支援が必要とされる児童の実態について交流・検討し、支援体制を整備するなど、個別の支援の充実を図った。	3.4						A

豊かな心の育成	自己肯定感・人権尊重の向上	個性を伸ばし、尊重する風土づくり レジリエンスの向上	8	児童会での主体的な活動を通して、他者の視点に立って考え行動するなど、子供同士でお互いに認め合う人間関係づくりができた。	3.1		3.6				委員長の事前打ち合わせ、活動の計画など児童が主体的に活動する姿が多く見られました。今後は、振り返りの見える化をより充実させること、6年生を中心に4・5年生も主体性を高め、誰でも委員会を進められるように進行の型を作り支援します。	・朝読書の件、改善傾向の様で安心しました。	
			9	子供が読書への意欲を高め、読書習慣が定着した。	3.3	3.4	3.1	2.5	2.85	B	朝読書や隙間時間に読書する様子が増えています。委員会活動などの様々な取組や図書環境のリニューアルなどで図書コーナーに足を運ぶ児童が増えてきています。		
			10	丁寧な教育相談や健康相談を行い、児童理解を深め、子供に寄り添うことで、子供が安心して学校生活を送る姿が見られた。	3.5								低学年でも、平常時に相談を目的として保健室に来室する様子が見受けられることから、健康相談の定期的な実施が児童の安心感に繋がっていると感じます。後期も同様に、担任との情報共有も大切にしながら丁寧に行っていきます。
			11	学級・学校行事等で、子供が主体的に活動できる場を設定し、達成感を味わわせることで、子供の自己肯定感が高まった。	3.7		3.2	3.2					学年間での言語活動が行いやすい雰囲気があります。どの学年もリーダーを決めたり、子ども達が活躍できるように発達段階に合わせて企画をしたりしています。異学年交流の多さも、寿都小学校のよさかなと思います。
			12	地域のよさや文化を知ったり、キャリア教育へつながったりする体験学習を通して、子供の豊かな心が育った。	3.7		3.7	3.4			A		CSの協力を得ながら、様々な体験活動を行い、子供たちも楽しみにしている様子が見られました。今後は、「キャリア教育」との結びつきをさらに強めながら、体験活動を充実させていきます。
健やかな体の育成	成長や学びを支える生活習慣の確立	心と体の健康の理解と、変容の見える化 レジリエンスの向上	13	マラソンカードや縄跳びカードを工夫したり、目標や到達度の見える化を図ったりするなど、子供の体力向上が図られた。	3.3		3.6	3.4			それぞれのカードで目標を具体的に提示していることで、運動に取り組んでみようとしている姿が見られました。今の時代に合った体力向上の取組を推進していきます。		
			14	食育や熱中症予防、健康相談等の取組を通して、子供が自ら健康に関心をもち、生活習慣を改善しようとしていた。	3.2	3.25	3.3	3.45	3.25	A	給食指導や食育授業を行い、定期的に給食の様子を見ることで、食事のマナーやよくかんで食べることなど意識して食べる姿が見られました。また、運動会時期などに合わせて熱中症予防の指導を行うことで、児童同士で水分補給の声掛けをする様子もありました。今後も学級の実態や季節の変わり目に応じて、食育や保健指導を行っていきます。また、食事や健康に日ごろから関心を持てるよう、保健室の掲示や給食カレンダーを活用して、情報を発信していきます。		
			15	地域と連携した避難訓練や防犯教室、交通安全教室などを実施し、子供が自分事として捉える安全・防災教育に取り組んだ。	3.8				2.9		B		訓練時の反応や行動が早く、これまでの取り組みが子どもに定着しているように感じます。警察や消防など、地域の専門の方からの協力で、より詳しく専門的な内容を学ぶことができたり、毅然とした雰囲気の中実感を持って取り組めていたりすることができています。
			16	子供のレジリエンス（失敗から立ち直る力、回復力）の向上が見られた。	2.8						B		レジリエンスは個人差が大きく、その向上を一律に見取るのは困難であるが、「落ち込んでもスッと前向きに立ち直る姿」をイメージしながら、学校全体で好意に満ちた言葉掛けや環境づくりができるようにしていきます。また、失敗させない事よりも、失敗をどう活かして次に進むかを考えさせる指導や関わりについて研修の機会などを通して学んでいきたいと思います。

信頼される学校づくり	温かく活 力ある組 織づくり の確立	「効率+ 効果」を 図る組織 マネジメ ント キャリア アップの ための Create & Change	17	教師力・授業力を高めるために、 日常の授業実践に生かす研修の充 実を図った。	3.4	3.36	3.5	A	研修の時間はもちろん、日常の職員室での会話・交流を通して、よりよい授業実践について教員間で深めていくことができました。ICTの活用など、最新の教育情報を注視しながら、日常の授業実践に向けた研修を行うことができました。今後も、子ども達の学力向上に向けて、教員間で様々な情報を共有しながら、研修を進めていきます。	
			18	各種通信やホームページ等により、 情報を進んで発信し、保護者 やCSときめ細やかに情報を共有す ることができた。	3.4				3.4	学級通信は、写真なども盛り込み、子供たちの特別活動だけではなく、日常の学びの様子もわかりやすく伝えるよう努めています。HPやブログでの発信も定期的に行っていますので、保護者はじめより多くの方々に見ていただけるようにしていきたいと思います。
			19	学校は、地域や学校運営協議会と 連携・協働しながら学校を運営し ている。					3.5	CSコーディネーターの積極的な関わりで、充実した学校運営協議会の場となっています。学校支援ボランティア活動については、子供たちの豊かな体験・経験の場となっており、地域に支えられ、愛されていることを大変、ありがたく思っています。これからも双方向の連携を意識して活動していきます。
			20	「効率+効果」的な業務改善を図り、 組織的な働き方改革を促進した。	3.3					学校で大きくできることは、ある程度のところまでできていると思います。これからは、関係機関との連携・協力を含め、ポイントを絞って効果的な改善策に取り組んでいきたいと考えます。